

# 「飯田市」 飯田市ボランティアセンター

## 〔センターの基本事項〕

所在地	〒395-0024 飯田市東栄町3108-1			
電話 FAX	0265-53-3182	0265-53-3183		
電子メール	is@iidashakyo.or.jp			
HPアドレス	http://iidashakyo.or.jp			
職員数	正規	2名	嘱託	—
	臨時	4名	その他	—
開所日と時間	平日 8:30～17:30 祝日を含む			
情報誌	社協情報誌「おマメで」 年3回発行			
来所者数	年間 720名			

## 〔センターの運営方針・指針等〕

地域住民のボランティア活動に関する理解と関心を深めるため、その啓発、指導、情報、資料の整備等、ボランティア活動に必要な業務を行い、もって社会福祉の増進を期することを目的として、社会福祉法人飯田市社会福祉協議会ボランティアセンター（以下「センター」という。）を設置する。（ボランティアセンター設置規程より抜粋）

## 〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	さんとびあ飯田（福祉会館）の会議室等無料
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	ボランティアルームを開設（テーブル、印刷機等）
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	プロジェクター、スクリーン、DVDプレーヤー、マイク・アンプ等及び車両の貸出 備品の貸出は無料、車両はガソリン代及び高速料金を該当者で負担、民間のマイクロバス借り上げ助成事業（5万円を上限に助成）
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット（出前福祉講座で使用） 無料
登録グループの専用ポストの設置	<input type="radio"/>	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

## 〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	飯田市ボランティアセンター運営委員会		
設立日	昭和58年4月1日		
委員構成	社協理事会1名、社協評議員会1名、NPO1団体、障害者団体1団体、教育委員会教頭会1団体、ボランティアグループ1団体、行政1団体		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VC職員が他の業務と兼務のため新たな事業に取り組むこと及び態で時間を十分に使えず、現状維持（後退の始まり）のまま過ぎてしまい、運営委員会のあり方についても検討する時間もない。VC職員及びコーディネーターの専任化が必要。</li> <li>・従来の福祉分野だけでなく、もっと多様な主体となりうる市民・団体の参加により委員会を構成することが求められる。</li> <li>・従来の事務局主導の運営方式ではなく、委員が積極的に事業やプログラムづくりに携わり、協働して事業を実施できる環境整備が大切。</li> <li>・社協内部での位置づけを明確にして、一定の権限及び責任体制を有するようになること。</li> </ul>		

## 〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	—		

## 〔財源〕

人件費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	—	—	○	—	—

事業費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	○	○	○	—	○
	<small>           社協1号委員会費、善意銀行寄付金（指定寄付を含む）、地域活動福祉基金運営事業収入金（賠償利息）、ボランティア運営基金事業収入金            福祉課障害福祉係、福祉課地域福祉係、危機管理部            コピー機・印刷機使用料収入、ボランティア保険基金事務費（県社協）         </small>				



〔事業計画・センター運営等について〕

<p>○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？</p>	<p>担当部署・担当職員間で事業計画を立案している</p>
<p>○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？</p>	<p>「飯田市社協第二次行動計画案」 内容：【現状】養成、団体支援、需給調整、相談、保険、備品貸出、災害、福祉教育などボランティア関係事業をのべ6名の職員が関わりボランティアセンター事業として実施。一部当事者等団体（4団体）に対しては活動を補助するよう事務局を担当。配食サービス、ファミリーサポートセンターは住民ニーズにあわせたコーディネートを実施し、有償移送サービスは各地域自治組織の事業実施支援をしている。今後団塊の世代がリタイア後に地域での住民活動への参加の希望が増えてくると予想される。 【目標】ボランティアコーディネーターの業務見直しやボランティア団体・個人の支援方法・育成法、福祉教育の方向性、職員体制など飯田市ボランティアセンターのあり方をボランティアセンター運営委員会を中心に検討・明確化すると共に、現在支援している当事者等団体との関わり方を検討する。有償福祉サービス事業を拡大し、新たな地域住民の福祉の担い手の発掘に寄与する。 【具体的な行動計画（5カ年）】 ①ボランティアコーディネーターの位置づけと業務内容の検討 ②ボランティアセンターの組織体制・業務内容の検討 ③福祉教育関連事業の見直し・新たなプログラムの地域への展開 ④社協で事務局を担当する団体との新たな関係性の構築 ⑤有償福祉サービス事業の拡大を検討</p>
<p>○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？</p>	<p>—</p>
<p>○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？</p>	<p>「特定非営利活動法人 くらりnet」 内容：「さまざまな市民活動団体の横のつながりを作り、相互交流や協働の中から、二次的な動きへつなげていこう」「そのための中間施設をつくって、情報の閲覧や発信ができるようにしよう」と設立した、民設民営の団体。現在は『市民活動共同オフィス』を運営し、より多くの人に活用いただける、市民活動のセンターの施設をめざして活動。</p>
<p>○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等はありませんか？</p>	
<p>連携・協働先</p>	<p>連携・協働内容</p>
<p>NPO法人飯田ボランティア協会</p>	<p>災害関係</p>
<p>ボランティアグループ・個人</p>	<p>福祉教育関係</p>
<p>飯田市男女共同参画課</p>	<p>多文化共生事業</p>
<p>○センターの強みと弱みについて</p>	
<p>《強み》 ・ボランティア総合相談窓口として受けたニーズを、その相談の中から見いだす、探し出す、掘り起こすことができ、その姿勢や資質がVC職員及びコーディネーターに求められる。 ・課題解決に向け支援機関やボランティアグループ等と一緒に取り組む仕組みを創ることができる。 ・多種分野にわたって活動する市民、NPO等と共に考え、共に汗を流す中で、そのつなぎ役の機能を果たし、協働体制と信頼体制を築くことができる。 ・センターの運営を従来の事務局主導の運営方式ではなく、委員が積極的に事業やプログラムづくりに携わり、協働して事業を実施できるよう環境整備を整える。そのために社協内部での位置づけを明確にして、センター運営委員に一定の権限及び責任体制が持てるようになること。</p>	<p>《弱み》 「強み」の反対。</p>

○VC見取り図

<p>○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど</p>
---